

公民館
通信
2024年
10・11月号
No.316

たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員

発行：多摩市立永山公民館 ☎206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 ☎206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

チャリンコ探検隊!

永山編



公民館ルポ

駅からグリナード永山4階を出て、ベルブ永山に入る。エスカレーターを上がると3階、永山公民館だ。やはりチラシがズラリと並んでおり、8枚のつい立てにもチラシがペタペタ。本日の催し案内や忘れ物コーナーのガラスケースも関戸と同じ。マンホールカード配布はキティちゃん柄。多摩市の「健幸都市宣言」が貼ってあり、節電対策もバッチリ実施中。埋蔵文化財施設の見学窓口も永山公民館で行っている。受付に可愛い粘土細工の埴輪??が3体。愛くるしい表情でこちらを伺っている。まるで永山公民館を必死で守っているみたい。



「赤ちゃん・ふらっと」は、東京都が定めた授乳・おむつ替えが

できるスペース。耳の不自由な方には筆談の準備もあり、車椅子の貸し出しも。ベルマーク、インクカートリッジ回収箱も。喫茶れすとではケーキやクッキーの販売が可愛くて。喫茶テーブルはいつも満席。はらっぱでは古本や手作りクッキー、カラフルな手作り品や新鮮な地場野菜も販売中。



ロビーのガラスケース2つには可愛いエコ貯金箱、仕掛け貯金箱、手ぬぐいで作るあずま袋、など季節によってさまざまなものが展示してあって、市民の目を和ませる。奥は多摩市消費生活センター。

こうして2つの公民館をぐるっと回ってみたが、今、2つは統合された。今まで別々に行っていたことも同じ組織下でできるようになり、公民館はますます進化している。これからもどんどん、お世話になるんだろうな。末永くよろしく願いますよと、と心の中で頭を下げたのであった。(楽)

コラム え・と・せ・と・ら

青年海外協力隊員として、太平洋に浮かぶ小さな島国・パラオの小学校に派遣されて1年 3 カ月。パラオでは、「ペリリューの戦い」から 80 年を迎えた9月 15 日(日)、慰霊の式典が行われた。

パラオは、第 1 次世界大戦終了後から太平洋戦争までの約 30 年間、日本の統治下にあった国である。当時は多くの日本人が住み、そのため米軍攻撃の標的となった。特にペリリュー島が激戦地として有名で、1944年9月からの2カ月間の上陸戦で、10,500名中10,022名の日本兵が戦死した。そのうちおよそ2,400柱の遺骨が、いまだに見つかっていない。

実は、パラオにはペリリュー島だけでなく、国内のあちこちに戦車や大砲、機関銃、銃痕だらけの建物、防空壕などがそのまま残されている。

また、ジャングル内を歩けば当時の軍帽やガラス瓶等も出てくる。現代日本ではほぼ感じない「戦前の日本」が、パラオで過ごしているととても身近なのである。この現実を、どれほどの日本人が知っているのだろうか。そして、80年もの間、雨水にさらされてきた戦跡や遺留品の数々が見られるのは、この先どれくらいなのだろう。

日本統治時代の教育やインフラ整備にいまだに感謝し、多くの日本語が公用語として残る「超親日国」パラオ。そんなパラオを、日本人にもっともっと知ってほしい。そして、戦争の記憶の風化が叫ばれる今こそ、自分自身がもっと学び、平和のために貢献していきたい。パラオのコバルトブルーの美しい海を見ながら、そんなことを感じる毎日である。(ニーチェ)



文庫連会員がお勧めする本

『どんぐりむらのぼうし屋さん』

作・絵/ なかや みわ 学研教育出版 2010年

のっぽの「ぽー」、小さな「ちい」、くるくる巻き毛の「くりん」はどんぐりむらの帽子屋さん。むらでは、なかなか帽子が売れず、都会に出掛けます。ところが、都会でも簡単に帽子は売れません。絵本は帽子屋を営む3粒のどんぐりたちが試行錯誤しながら、人気のお店になるコツを見つける物語です。お子さんと一緒にわくわくしながら読み、これからの季節どんぐりがたくさん見つかると思いますので、一緒に探してみたり、色んな帽子を見つけてみてはいかがでしょうか。

かしのき文庫 影山健太



『おじいちゃんの日 ぼくの日』

作/パトリシア・マクラクラン

訳/若林千鶴 絵/黒井 健 リーブル 2024年7月

「おじいちゃんは目がみえない。ぼくのように家はみない。おじいちゃんだけのやりかたで、みるんだ。」見えなくても音や匂いを感じて、まるで見えているように何でもできるおじいちゃんのやりかたを、ぼくはすごいと思う。目をつぶっても身体全体で感じる力があるということ、ぼくもわかるお話し。訳者の若林さんは中学校教師の経験から、「あとがき」に生徒たちとのエピソードを語っています。85歳で2022年に逝去されたマクラクランの最初の本『のっぽのサラ』（ニューベリー賞受賞）もお勧め。

コアラ文庫 青木洋子



編集後記

☆今年の永山フェスティバルも無事に終了することができた。が、初日があまりにも暑すぎた。開催時期を再考するタイミングが来たのだろうか…(´▽`)

☆先日、毎年恒例の永山フェスティバルが無事に終了。フィナーレで永山音頭と永山ソングを踊り切るも、案の定翌日筋肉痛に悩まされる。最後の会場の一体感はずよかったなあ。(や)

☆初孫誕生！が、陣痛25時間(前駆から5日)促進剤に無痛分娩(背中針刺すの、麻酔しても激痛)娘、高血圧からの低血圧。産後6時間に大量出血(1700cc)って…致死量やん！(退院まで面会謝絶。お産は命がけだね。生きてるだけで拍手喝采！(楽))

☆猛暑に豪雨被害。秋よ来い。(月)

↓カラー版はこちら



- た こ焼き食べたい
- の どから手が出る
- し ろいお皿に
- い っこ、にこ、さんこ…
- ま よねーずを忘れずかけて
- ち よっとハフハフ、幸せ気分

